

「松葉ボタンがささやくみ言葉」(2023. 8. 20)

「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。

それは朝ごとに新たになる。」(哀歌 3:22~23)

数週間前、ある姉妹から 8 株の松葉ボタンを提供していただき、教会駐車場の花壇に植えていた。初めての土壌になじむか心配であったが、ある朝、1 輪の赤い花が咲いていた。次の日も、橙の花が 1 輪咲いていた。嬉しくなって毎日注意して観察すると、2~3 輪の赤や黄色、白の花が日替わりで咲いている。ある時はなんと 8 輪の花が咲いたときもあった。右の写真はその時の一部である。



先日、家内が退院した次の朝、いつものように教会駐車場を見まわしていると、一輪の白い花に目が留まった。たたずみ見つめていると、ふと、思い至った。「一度咲いた花は、その日だけで、次の日は別の花が咲いている！」(正しい観察かは不明)。松葉ボタンは毎日日替わりで新しい花を咲かせて、きっと見ている私を楽しませている。そう思った時、上掲のみ言葉が浮かんできた。家内と共に迎えた朝も主の慈しみ、主の憐れみであり、それは、朝毎に新たなことなのだ。

先月、中村哲さんの記録映画を見る機会があった。医師としてアフガニスタンやパキスタンで多くの病人を診る中で、その原因の一つに水があることに気づきます。きれいな水を供給することができればかなりの病人を救うことができる。医師の仕事を別の人に託して、地元の人々の協力を得て、用水路建設に没頭します。頭の上を米軍のヘリが飛んでいく、その下で黙々と用水路建設に地元の人々と汗を流すのです。やがて傭兵が作業員になり、干ばつの地が緑に変わり、子供たちが水遊びを楽しむのです。

後に彼はこう言っています。「平和な信頼関係を築くことが一番の安全保障だと肌身に感じる。」そして「憲法 9 条は日本に暮らす人々が思っている以上に、リアルで大きな力で、僕たちを守ってくれている。」彼は中学生の時、洗礼を受けてイエス様の弟子として歩んできました。しかし、残念ながら 2019 年 12 月、凶弾に倒れました。でも、天国にいても同じことを叫んでいると思います。武力による威嚇や行使のない世界、それは世界中の全ての人、ロシアや中国の人々にとっても心からの願いだと思います。この願い、この祈りを慈しみの主、憐れみの主に、朝ごとに捧げたい。